



第 11 回環境脳科学セミナーのお知らせ

良質な睡眠は 神経変性疾患の発症と進行を防ぎうるか？

講師：皆川 栄子 先生
国立精神・神経医療研究センター
疾病研究第四部

日時： 2017 年 12 月 14 日（木） 17:00～18:00

場所： 早稲田大学所沢キャンパス 100 号館 407 号室

皆川先生はパーキンソン病やアルツハイマー病など神経変性疾患の臨床並びに研究をされている気鋭の研究者です。京都大学医学部卒業後、臨床医のご経験の中から研究へと道を進まれました。海外への研究留学も経て、神経変性疾患の早期から出現する睡眠障害と病態の進行との関係に脳内のタンパク質の恒常性（プロテオホメオスタシス）が関わるという独自の視点からマウスを用いた動物実験を行い、今年の日本睡眠学会ではストプレゼンテーション賞を受賞されました。

臨床医学と動物実験の両面から神経変性疾患研究の最前線をお聴きできる機会です。興味のある方はぜひご参加ください。

参考文献：

1. Minakawa EN*, Miyazaki K, Maruo K, Yagihara H, Fujita H, Wada K, Nagai Y*, Chronic sleep fragmentation exacerbates amyloid β deposition in Alzheimer's disease model mice, Neuroscience Letters pii: S0304-3940(17)30452-4.
2. Atkin G, Hunt J, Minakawa E, Sharkey L, Tipper N, Tennant W, Paulson HL. F-box only protein 2 (Fbxo2) regulates amyloid precursor protein levels and processing. J Biol Chem. 2014 Mar 7;289(10):7038-48.
3. Minakawa EN, Yamakado H, Tanaka A, Uemura K, Takeda S, Takahashi R. Chicken DT40 cell line lacking DJ-1, the gene responsible for familial Parkinson's disease, displays mitochondrial dysfunction. Neurosci Res. 2013 Dec;77(4):228-33.
4. Minakawa EN, Matsumoto R, Kinoshita M. Topiramate-induced agranulocytosis. BMJ Case Reports. doi:10.1136/bcr.11.2008.12732009, 2009.

問い合わせ先： 人間科学学術院 環境脳科学研究室(535 号室)掛山 kake@waseda.jp